



良く人間族の方々には「ラブちゃんはフレンドリーでいい子だね」と言われて、我が飼い主は嬉しそうに「そうですか~~~~」などと満更でもなさそうな顔をしておりますが、残念ながら唯一飼い主の思い通りにならないのが私の拾い食いなのです。

普段はドライタイプのドッグフードだけを食べていて、体調が悪い時などは病犬食の缶詰などにありつける事もありますが、しつけ用のトリーツやおやつに全くといって良いほど縁がありません。しかし、常に八方に気を配っている私にとってチャンスは常に存在します。最大級の盗み食いは当家のお祖母ちゃんが吊した干し柿20数個をゲットした時で、出てきた物も無数の種が突き刺さった褐色の鏡餅の様でありました。

又、我が家のお兄ちゃんのT君が小学5年生の頃、私は2歳になる前でしたがその夏休みの自由研究にと「カビの研究」をした時のことです。T兄ちゃんは食パンを日なたに置いたり、冷蔵庫に入れたり5箇所に分けて保存・観察し、毎日写真を撮り観察日記を付けておりました。良い具合に青カビが繁殖しいよいよ観察も終了かと思われたその時、廊下に置かれたその実験材料は私のお腹に入っておりました。

T兄ちゃんは残った4つの食パンの観察記録をまとめ、「カビは暗くて湿った所に良く繁殖する」という結論を得てクラスで発表することになりました。しかしながらこれだけでは彼の論文は郡山市の夏休みの自由研究で「金賞」を獲得することは出来なかったでしょう、なぜならば彼が予想もしていなかった「犬は青カビを食べてもお腹をこわさない」という新たな研究成果を発表したことが評価されて得られた金賞だったからです。

この様な怪我の功名もありましたが、私の性癖がやがて命にかかわる事態を招こうとは、この時は予想だにしていませんでした。